

国立国際美術館 収集方針

国立国際美術館では、日本の美術の発展と世界のアートとの関連を明らかにするために必要なアートに関する作品・その他資料のうち、1945年以降を重点的に収集している。これまで主に戦後の欧米、また戦後から現在にいたる日本の現代アートを網羅的かつ重点的に集めることを目指し、収集を継続してきた。収集に際しては、当館が企画した展覧会に出品された作品、あるいは今後の展覧会を見据えて集めてきた作品を対象にするほか、既に収蔵している作品との関係で欠けている時代や傾向を補うことにも留意している。

令和2年度の購入作品としては、世界的な現代美術作家ヨーゼフ・ボイスの《小さな発電所》をはじめ、同年に開催したヤン・ヴォーの個展出品作品、現代写真の領域を牽引し続けるシンディ・シャーマン等の海外作家による作品と、オノ・ヨーコの彫刻、久保田成子の映像など日本人作家の作品が含まれる。とりわけヨーゼフ・ボイスの作品はボイスに近い関係者が長らく所蔵した貴重な作品であり、大変重要な一点として位置づけられる。

国立国際美術館 美術作品購入一覧（令和2年度）

 = 特別予算購入

1		種 別	： 彫刻
		作 者 名	： ヨーゼフ・ボイス（1921-1986）
		作 品 名	： 小さな発電所
		制 作 年	： 1984年
		材 質 ・ 形 状	： 銅、鉄、フェルト
		寸 法	： サイズ可変
		解 説	： 銅線で繋がれた3つの銅の箱、その箱の1つには、フェルト片が差し挟まれている。作品名から浮かび上がる「エネルギーの生成と循環」といった主題に鑑みれば、この銅は伝導体、フェルトは絶縁体ないし蓄熱体ということになるだろう。人間の営みのすべてを「制作」行為になぞらえ、社会を一個の「彫刻」とみなしたボイスは、自作をとおして、運動や生成変化のプロセスそれ自体を象徴的かつ即物的に提示しなければならなかった。その造形理論ならびに芸術理念を体現している点で、本作はボイス芸術において重要な位置を占める。
		取 得 額	： 528, 447, 200円
		展 示 予 定	： 計画中
2		種 別	： 彫刻
		作 者 名	： ヤン・ヴォー（1975-）
		作 品 名	： 無題
		制 作 年	： 2019-2020年
		材 質 ・ 形 状	： 木造構造物：ミラー・フォイル15点（1点はヤン・ヴォーによるアクリル画）、発色現像方式印刷2点（ヤン・ヴォー撮影による甥グスタフの写真）、インク・紙（フン・ヴォーによるカリグラフィ）、マーキュリーの大理石像トルソ（1世紀頃のローマ工房による）、ボグダン・アブロズィニーのドローイングが描かれた木箱
		寸 法	： サイズ可変
		解 説	： 本作品は、2019年ヴェネチア・ビエンナーレの出品作品《All work》（2019）が元になっている。2020年開催の個展に同作品を出品することを予定したが、新型コロナウイルス感染拡大により、現地制作を予定していたヴォーの美術学校時代の教師、画家ピーター・ボンデは来日が出来ず、ヴォー自身が絵画を描いている。父親フン・ヴォーの手によるカリグラフィ、ヴォー自身が撮影した甥の写真、そしてヴォーが芸術的創造物の礎と考えるローマ時代のマーキュリーの大理石トルソによる構成により、ヴォー自身の姿が浮かび上がる秀作。
		取 得 額	： —
		展 示 予 定	： 計画中
3		種 別	： 洋画
		作 者 名	： スターリング・ルビー（1972-）
		作 品 名	： BC（4964）
		制 作 年	： 2014年
		材 質 ・ 形 状	： 布、接着剤、脱色したカンバス、パネル
		寸 法	： 213.4 × 213.4 cm
		解 説	： BC（Bleach【漂白・脱色した】・カラーージュ）シリーズの本作品は、布に漂白液を垂らしてロールシャッハ・テストのイメージのように左右対称の、白黒反転したパターンを作り、その上に画面を二等分する鮮やかな色のテープをカラーージュし、さらに俗っぽい布を貼り付けたものである。支持体の布の脱色を通して、布自体からイメージを出現させ、カラーージュされた細長いジップが、前後関係を生じさせている。アンディー・ウォーホルの「ロールシャッハ」と、バーネット・ニューマンの「ジップ」を引用しつつ、またアメリカ土着の織物をも活用しながら、破壊と創造を共存させつつ、類い稀な深遠なエネルギーを有する作品を作り出している。
		取 得 額	： —
		展 示 予 定	： 計画中

4	種別 : 洋画 作者名 : 中原浩大 (1961-) 作品名 : Pine Tree Installation 制作年 : 1983年 材質・形状 : 黒鉛、クレヨン、布、ほか 寸法 : 230.0 × 530.0 cm 解説 : 中原浩大の現存作品の中で最も古い本作品は、松 (Pine Tree) の絵でも、松を主題にした作品でもない。本人によれば、「能の舞台上に、絵に描いた松が背景に一本あって、それはそこには無いものなんだけど、みんな松がそこにあるというふうに感じてしまう。…そういうイメージをやるうとして、その黒い画面に白い線だけキュキュット描いてあるものが浮かんでいるような作品」となる。中原初期の重要作品である。 取得額 : — 展示予定 : 計画中
5	種別 : 洋画 作者名 : 中原浩大 (1961-) 作品名 : Pine Tree Installation; アトム 制作年 : 1983年 材質・形状 : 顔料、油彩、クレヨン、布、ほか 寸法 : 250.0 × 550.0 × 120.0 cm 解説 : 《Pine Tree Installation》の約3ヶ月半後に発表された本作品は、「;アトム」とだけ追加したタイトルをもった、縦横比がほぼ同じ作品であるが、コンセプトも近似している。本人によれば「実在しないようなイメージがその場にドンて存在しちゃうみたいなことをやろう」とした新作である。前作の能舞台の松を漫画の主人公へと大きく転換しつつも、あらゆる前例からすり抜けた「存在しているような感覚」の創出を再び目指した、かなり特殊なイメージを採用した作品であり、当時の創作感覚を具体化した、もう一つの貴重な作品である。 取得額 : — 展示予定 : 計画中
6	種別 : 素描 作者名 : ロバート・モリス (1931-2018) 作品名 : ブラインド・タイム (XXXVIII) 制作年 : 1973年 材質・形状 : 黒鉛、紙 寸法 : 88.9 × 116.8 cm 解説 : 本作は、モリスが1973年から2001年まで断続的に続けたコンセプチュアルなドローイングの代表的なシリーズである。作画のプロセスを予め決定し、視覚を遮断したり、利き手でない方の手も使ったりしながら、黒鉛を紙にこすりつけていく。手を動かすタイミングも予め決められている。ミニマルな相貌でありながら、時間やパフォーマンスといったモリスにとって鍵となる要素が凝縮された作品。 取得額 : 9,944,000円 展示予定 : 計画中
7	種別 : 版画 作者名 : ブルース・ナウマン (1941-) 作品名 : ホログラムの習作 制作年 : 1970年 材質・形状 : シルクスクリーン、紙 寸法 : 5点組、各66.0 × 66.0 cm 解説 : 本作品は、歩く等のパフォーマンスによる映像作品とともに70年前後の代表作であり、指を使って誇張した顔5種類をセットにした版画である。「First Hologram Series: Making Faces」という68年制作の11点組ホログラムから5点を選び、顔下半分のみをトリミングし、実物大以上に拡大し、黄で着色したものであるが、目が省かれたことで感情の表出は抑制され、口と指を使った子供の遊びを思わせ、また形態の事典のようでもある。彫刻の素材である粘土等に代わるものとして、身体を素材にした作者初のシルクスクリーンでもある。 取得額 : — 展示予定 : 計画中

8	種別	版画
	作者名	ブルース・ナウマン（1941-）
	作品名	明確な視野
	制作年	1973年
	材質・形状	リトグラフ、シルクスクリーン、紙
	寸法	91.4 × 123.8 cm
	解説	「CLEAR」と「VISION」の2つの単語が反転状態で刷られた版画であるナウマン初期の本作品は、「CLEAR VISION」について問いただす文字を用いた作品であるが、反転という版画の制作過程に固有の現象をシンプルに活かした版画である点で、アイデアとして秀逸である。とともに、作品が持つ情報を意図して分かりにくくして直截的な表現とはせず、作品と鑑賞者の間に緊張関係を生じさせることは、ナウマンが好んで用いる手法であるが、本作品のテーマはまさにそういう情報認識に関わるものであって、典型作のひとつである以上に関心が凝縮された作品であって、このアーティストの版画の代表作となっている。
取得額	—	
展示予定	計画中	

9		種別	彫刻
		作者名	ヴィンセント・フェクトー（1969-）
		作品名	無題
		制作年	2018年
		材質・形状	パピエ・マシェ、樹脂粘土、アクリル絵具、藤、ほか
		寸法	63.5 × 75.0 × 39.0 cm
		解説	本作品は、フェクトーの真骨頂となるパピエ・マシェ作品であり、電気製品等の箱詰め用鋳型のようなものを解体して再構成し直し、さらに彩色してテクスチャも加えたものである。
取得額	—		
展示予定	計画中		

10	種別	彫刻
	作者名	小清水漸（1944-）
	作品名	垂線 I
	制作年	1969-2013年
	材質・形状	真鍮、ワイヤー
	寸法	300.0 × 8.0 × 8.0 cm
	解説	《垂線》は、小清水が《位相-大地》以後に制作した最初の作品で、垂直という観念的な事象を、最低限の素材によって実体化するというコンセプトによって制作された。作家自身が「私の現代にいたる作品の出発点」と発言する。
取得額	—	
展示予定	計画中	

11	種別	写真
	作者名	シンディ・シャーマン（1954-）
	作品名	Untitled #129
	制作年	1983年
	材質・形状	発色現像方式印画
	寸法	88.3 × 58.8 cm
	解説	本作は、1983年から84年にかけて制作された「ファッション」シリーズの1点。同シリーズでシャーマンは、有名デザイナーによるファッションナブルな洋服をまとい、最先端のモードに負けないほど「風変わりな登場人物」を生み出した。最新ファッションに身を包みながらも物憂げな表情を浮かべる女性の姿からは、女性という記号の下で求められる役割へのシャーマンによる抵抗でもあろう。
取得額	—	
展示予定	計画中	

12	種別 : 写真 作者名 : 植松奎二 (1947-) 作品名 : 石、ロープ、人 制作年 : 1974年 材質・形状 : ゼラチンシルバープリント (14点)、石、ロープ 寸法 : 14点組、各53.8 × 36.6 cm 解説 : 作家にとって、重力や引力といった不可視の力を可視化することは、一貫して重要な主題であるが、1970年代には自らの体を使い、カメラの前で様々な可能性を追求していた。《石、ロープ、人》はその代表作である。石にロープをくくりつけて作家本人が振り回す、連続写真のような一連のイメージからは、三つのモメントの間に働く遠心力と重力を読み取ることができる。 取得額 : — 展示予定 : 計画中
13	種別 : 写真 作者名 : 鷹野隆大 (1963-) 作品名 : ヨコたわるラフ (1999.09.17.L.#11) 制作年 : 1999/2020年 材質・形状 : ゼラチンシルバープリント 寸法 : 2点組、各130 × 96 cm 解説 : 本作品は、モデルが持っている存在感を剥き出しのまま、まるごとフィルムに定着しようとした「ヨコたわるラフ」シリーズ (1996-2000) の主要作品である。このシリーズは、自分の美意識を表現しようと躍起になって、思い描く「美」を手に入れるために撮影を行ってきた鷹野が、そのような価値観を捨て去り、多様で豊かな眼前の現実を目に向け、特に多くの人が見過ごし、あるいは気付かない振りをしている何かを撮影の主対象とし始め、現在の鷹野への転機となったものである。 取得額 : — 展示予定 : 計画中
14	種別 : 写真 作者名 : 奈良原 一高 (1931-2020) 作品名 : ローズ・セラヴィ 制作年 : 2018年 材質・形状 : クリスタルプリント 寸法 : 7点組、各61.0 × 50.8 cm 解説 : 1992年に奈良原は自らの写真と瀧口の残したメモによる写真集『デュシヤン大ガラスと瀧口修造シガー・ボックス』を出版した。本作は、そこから代表的なイメージ7点を選びすぎり、ポートフォリオに仕立てたものである。撮影の際、奈良原はガラスの表現にこだわったというが、本作では硬質な光沢感のあるクリスタルペーパーにプリントすることで、新たな息吹を吹き込んだ。デュシヤンに触発され瀧口とも共同制作を行った岡崎和郎が制作協力している。 取得額 : 4,180,000円 展示予定 : 計画中
15	種別 : 写真 作者名 : 彦坂尚嘉 (1946-) 作品名 : フロア・イベントNo. 1 制作年 : 1970/2017年 材質・形状 : ゼラチンシルバープリント 寸法 : 21点組、11.4 × 18.6 cm、12.1 × 19.7 cm、14.2 × 22.2 cm 解説 : 1969年に多摩美術大学在学中に「美術家共闘会議」を結成した後、既存の芸術を鋭く批判する流れで取り組んだのが、最初の《フロア・イベント》である（その後繰り返し行っている）。ラテックスを自宅の床に撒くという行為とその記録写真から成るが、小柳幹夫と刀根康尚が協力者（補助・撮影）であり、また唯一の目撃者となった。時間の経過とともに乾いていくラテックスの被膜を撮影したのは彦坂自身であり、こうした一連のイメージは、本作が70年代のコンセプチュアリズムに通ずる芸術実践でありつつも、絵画という地平を新たに切り開く可能性を開示するものでもあったことを雄弁に物語る。 取得額 : — 展示予定 : 計画中

16	種別：映像 作者名：藤井光（1976-） 作品名：南蛮絵図 制作年：2018年 材質・形状：シングルチャンネル・ビデオ・インスタレーション（カラー、サウンド） 寸法：14分 解説：本作は、2017年度開催の開館40周年記念展に際して制作・出品された作品。藤井は当館のコレクションの中から、1982年に当館が写真家の奈良原一高に撮影を依頼した、ポルトガルの国立古美術館が所蔵する南蛮屏風図の複製写真に関心を寄せ、調査に着手した。「複製」を遙かに超えた奈良原の意図を看取した藤井は、屏風に描かれている非西洋人に着目する。南蛮貿易という交流における彼らの存在を通して、視覚芸術における黒人表象など、様々な問題提起に満ちた映像作品にまとめている。 取得額：— 展示予定：計画中
17	種別：彫刻 作者名：オノ・ヨーコ（1933-） 作品名：忘れなさい 制作年：1988年 材質・形状：ブロンズ 寸法：台：24.0 × 23.0 cm、針：6.0 cm 解説：1960年代前半に行った独自のコンセプチュアルな活動が日本を舞台とした場合も少なくなく、作曲家・映画製作者等としての多岐に渡る活動の中でも、当時のことが我が国では注目されがちに違いないが、1960年代中頃に集中してオブジェを制作していて、それらは他の仕事と同様、見る者の想像力に訴える開かれた性格を持つ。海外で発表されたそれらはまさに想像力の働きに着目したもので、そのため非物質的な透明なアクリルを使用した作品が主であったが、1980年代後半、しばらく映画と音楽に精力を集中していた彼女が、自身の芸術の再生と拡張に乗り出し、それら20数年前の作品をブロンズによって再制作する。本作品はその主要作である。 取得額：— 展示予定：計画中
18	種別：彫刻 作者名：成田克彦（1944-1992） 作品名：SUMI 制作年：1968年 材質・形状：木炭 寸法：13.1 × 11.3 × 11 cm 解説：本作品は、成田克彦の名を高めた一連の「SUMI」作品の原型とも言うべき小品である。成田の「SUMI」が最初に発表されたのは1969年10-11月に開催した「第6回パリ青年ビエンナーレ」（同展日本側コミッショナー東野芳明の発案により、高松次郎、関根伸夫、田中信太郎と共に「ボソット・グループ」として参加し、グループ賞を獲得した。）であったが、この小品は、その前年年末に東京画廊主の山本孝に持参したものである。山本に認められたことも一つの要因となり、およそ1年後にパリでお披露目して評価を得て、さらにその1年後1970年、東京ビエンナーレ「人間と物質」展で初めて国内で紹介され、成田の「SUMI」の評価は確実なものとなった。成田の「SUMI」は、同展コミッショナーの唱える人間と物質の新しい関係性を象徴的に示した作品の代表的作例と見なされたのである。 取得額：1,100,000円 展示予定：計画中
19	種別：彫刻 作者名：堀川紀夫（1946-） 作品名：The Shinano River Plan 11 制作年：1969年 材質・形状：石、針金、宮澤壯佳氏宛郵便タグ、関連資料、ほか 寸法：8点組 解説：新潟県内を拠点に活動してきた堀川の代表作が石のメール・アートである。1969年7月21日、アポロ11号の月面着陸および月の石の採取に着想を得て、堀川は「地球の石」として信濃川で石を11個拾い、美術関係者11人にその石を郵送した。本作はその石と、アーカイブ資料から成る。 取得額：— 展示予定：計画中

20

種別	別	写真
作者名	名	クリストファー・ウイリアムス (1956-)
作品名	名	車名：1964年ルノー　ドーフィン-4、R-1095 ボディタイプ&乗車定員：4ドアセダン／4-5名 エンジン型式：14/52　重量：1397ポンド 価格：US\$1495.00 (オリジナル) エンジンデータ：直列4気筒オーバーヘッドバルブ、鋳鉄ブロック、アルミニウムヘッド、脱着式シリンダースリーブ付き 総排気量：51.5cu. in. (845cc) ボア×ストローク：2.28×3.15in. (58×80mm) 圧縮比：7.25:1、最大出力：32 (SAE)／4200rpm、最大トルク：50ポンド／2000rpm、3メインベアリング、ソリッドバルブリフター、シングルダウンドラフトキャブレター シャーシデータ： ホイールベース：89in.　全長：155in.　高：57in.　幅：60in. トレッド (前)：49in.　トレッド (後)：48in. スタンダードタイヤ：5.50×15in. テクニカル： 車両レイアウト：リアエンジン、リアドライブ トランスミッション：4速マニュアル ステアリング：ラック&ピニオン方式 サスペンション (前)：独立コイルスプリング　サスペンション (後)：独立コイルスプリング、スウィングアックスル ブレーキ：ディスクブレーキ (前・後) ボディ構造：スチールモノコック・ボディ 生産データ： 売上げ：18,432台／US・1964年 (全タイプ) 製造業者：ルノー公団、ビヤンクール・フランス 販売業者：ルノー社、ニューヨーク・ニューヨーク州 製造番号：R-10950059799 エンジンナンバー：Type 670-05 # 191 563 カリフォルニア州ナンバープレート番号：UOU 087 車両登録番号：0059799 2000年1月15日
制作年	年	2000年
材質・形状		ゼラチンシルバープリント
寸法		11点組、各 26.0 × 33.0 cm
解説	説	作品のイメージは、一見ドキュメンタリー風で、審美的完成度の高さを特質とし、タイトルには被写体の特徴や事実が記載されるが、それらは鑑賞者に様々な見方を可能にさせんとした独自の方法であって、写真におけるコンセプチュアル・アートの卓越した達成である。本作は、1968年の5月危機の際のルノーの工場でのストライキや、パリの学生の暴動においてバリケードとして使用された車に想を得たもので、彼の作品の中では近代化をテーマにした主要作である。11点の写真は各々撮影角度がわずかに異なりカットの相違という、写真に固有の現象の意図的な作品化であるにとどまらず、大規模な出来事を想像させる忘れ難いイメージであって、広い展示空間をもつ美術館が収蔵するに適した作品である。
取得額	額	—
展示予定	定	計画中

他46点／計66点　購入総額：758,905,974円